第２回学校運営協議会（令和６年２月19日月曜）記録

１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ
【性教育について】
・生徒の実態が変わってきているのではないか。継続して取り組んでいってほしい。
・発達障害や軽度の生徒への指導力を高めてほしい。

２．学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ
【三観点を意識した授業づくり】
・「応援団」として授業に参加させてもらっていると、実践できていると感じる。生徒が「おばちゃん、ここはこうするんやで」と自分から教えてくれたりしている。参加していて本当に楽しい。
・三観点と指導計画のつながりを強化してほしい。
【GIGAスクール構想】
・校務パソコンの入れ替えだけではないのか。
　→システムも入れ替わるので、切り替えの作業が大変である。
・授業でchromebookを利用している教員が増えている。PowerPointから作っている教材が多い。個人で持っているそのようなデータ（教材）を集めて、教員間で共有していってほしい。共有できるものを集めていくと、大きな財産になる。

３．働く意欲と働く力をはぐくむ
【奈良東応援団】
・喫茶や機織りなど、仕事を通して、生徒が応援団に主体的にかかわっている。生徒が作業を理解し、自分から応援団の方に方法を伝えようとすることができている。
【働く場】
・多様性を認める社会になりつつある中、障害として捉えるのではなく、個人の特性ととらえ、社会で活躍できる職場が増えていけば良い。

４．地域と協働して活躍する人を育てる
【災害時への備え】
・養護学校の在校生、卒業生とその家族は、福祉避難所となった養護学校へ直接避難ができることを本人とその家族は知っているのか。
・奈良市のHPを見ても、宣伝されていない。
・備蓄品の量が圧倒的に不足している。
・Ｒ６年度の奈良市総合防災訓練で、福祉避難所の開設訓練をしてみてはどうか。
・Ｒ５年度の総合防災訓練を行った。奈良市からは「なにも想定せずに取り組んでほしい。」と言われた。取り組んではみたが、その後奈良市から課題の整理などの話はない。
・学校と民間の事業所は規模が違うが、地域の資源としてともに備える必要がある。そのためにも、連絡会のようなものを持つべきだと思う。
・避難所設置に向けて、行政を動かすためには地域との連携が大事だと思う。地域の自治会が声を上げていけば、福祉避難所の話も進みやすくなるのではないか。

・小学校区を単位に「まちづくり会議」が設定されている。そこでも発信していく。
・いろんな場面で、この地域の二次避難所や福祉避難所をどうしていくのか、といった声を上げていきたい。
・「奈良東応援団」として地域住民が学校と関わる中で、地域のつながりも点から線になってきている。

５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる
【センター的役割】
・地域の課題は何なのか。そこに関わっていくのがセンター的役割。
・市教委の指導主事と連携して取り組んでいる。
・地域で頑張れる子が養護学校へ来ているのではないか。
・大和郡山市の課題としては、まずは子供たちの経過をどう追跡していくか、だ。
・幼稚園や保育所の園長さんたちの意識を、どう変えていくかが課題である。それぞれの立場の課題を捉え、整理することが必要だ。
・知的養護学校へ通う児童生徒は全県的に増えてきているが、療育手帳の交付数は変わらないとのこと。医師や訓練士などが保護者に与えている影響が大きいように思われる。
・教員の初任者研修に、養護学校の取り組みを知ってもらう講座を設けてはどうか。
・大学生のボランティアが来ているのなら、「大学生の応援団」を組織してはどうか。
・卒業後の進路先としては、生徒の特性に合った仕事をもっと作り出していくことが大事だと思う。

【いじめ】
・「本校ではいじめはなかった」とのことだが、引き続き見えていないところも探りながら子供たちの指導に当たってほしい。

〇その他
・学校評価総括表のプリントの文字を大きくしてほしい。
・来年度は、２学期中に、新たに防災部会と地域協働部会の場を設定する。